

# 事務事業名 通学合宿実施事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:04 学校家庭地域の連携

部名:教育部

課名:生涯学習課

基本事業:04 地域教育力の向上

計画年度	年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内の小学4年生から6年生までの児童		〔事務の流れ〕 実施対象小学校と日程を調整する。対象児童に募集をかける。保護者及び参加児童に対し説明会を実施する。参加児童に対し、事前研修会を実施する。（スケジュール・メニューづくり等） 通学合宿の実施 趣旨：地域のコミュニティー施設を利用し、集団生活を行い学校に通う。 平成21年度 対象児童：日向小学校13名、山武西小学校7名 場所：さんぶの森中央会館 実施時期：9月8日～11日（年1回） 内容：3泊4日、学習・料理・洗濯・掃除・その他 その他：最終日の夕食は、親子で食事（準備は児童）				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
異年齢での集団生活を通じて自分の立場や役割を自覚するとともに、生きる力とより良い人間関係を育む。 また、地域の人々との係りを重視し、「地域で子ども達を育てる」という意識を培う。						
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	打合せ会の回数	回	3	3	3	-
活動指標						
成果指標	参加した児童の人数	人	16	20	30	-
成果指標	参加して良かったと思った児童の割合	%	100	100	100	-
事業費		千円	142	246	328	
		うち一般財源	千円	142	246	328
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		国・県で推進している事業であるため妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		対象者に対し募集人員の制限があるため、貢献度は普通である。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		3泊4日の事業であるため、小学4年生から6年生の児童が対象である。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		中学校単位で実施しているため、児童の仲間意識の向上が図られる。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		県（東金青年の家）で実施しているが、地域の人達のボランティアによるなど事業趣旨が違うので再編成はできない。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		現在、食事の賄い材料は個人負担しており、既に受益者負担している。				